



取材レポート 第8回

フラッツウッズ木場

江東区に令和2年3月にできた、12階建ての木造ハイブリッド建築の単身者向け賃貸マンションについて取材してきました。なお、この建築はウッドデザイン賞2020のソーシャルデザイン部門で優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。

東京都江東区に東京本社がある竹中工務店が、江東区東陽3丁目に12階建ての単身者向け共同住宅を建築し、令和2年3月にオープンしました。今回は12階の共用部分と一階の住戸の一部屋を見学させていただきました。

この建物では、竹中工務店が開発した燃エンウッドという耐火集成材を柱と梁に使っています。燃エンウッドは柱の外周にゆっくり燃える「燃え代層」という木の層と、モルタル等で出来た「燃え止まり層」をもうけることで万が一の際でも建物を支える柱の中心部の木を守るつくりとなっているそうです。12階のテラスでは実際に燃エンウッドの柱を見ることが出来ます。



写真提供：竹中工務店



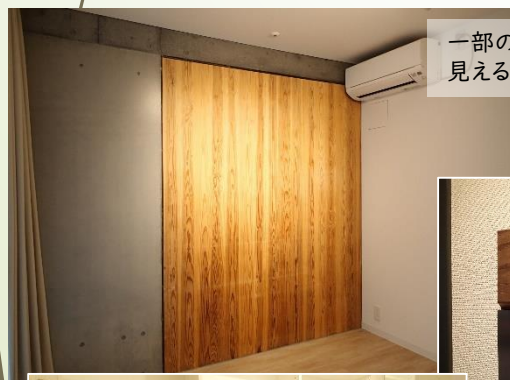
写真提供：竹中工務店



12階の居住者用のカフェテリアには、燃エンウッドやCLTの見本で作った椅子やテーブルなどがおいてありました。



居住者用のスタディールームやフィットネスルームにもふんだんに木材が使われていました。(フィットネスルームは現在使用を中止しているそうです。)



一部の住戸部分ではCLTの壁が見える作りとなっています。



1階から12階まで外壁には熱処理木材という、高圧の釜の中で高温の水蒸気で処理した高い耐久性をもった木材を使用しています。各部屋の部屋番号が書かれた札は外壁で使われて余った熱処理材を再利用したものだそうです。

全国各地のどこどこで伐採された木が、建物のここで使われているというのが明確にされており、都市と地域を木材を通して経済や産業などを循環させていくことをとても大切にされていました。

このマンションを建築中に近くを通った事がありますが、一見高層ビルを建設しているのに木材のいいにおいがしてくるのが印象的な建設現場でした。

この木造ハイブリッド建築はこれからの都市部の木造、木質化建築を実現する次世代の木造技術が使われており、これからの木造高層ビルの可能性の広がりを感じさせる建物でした。



こちらのサイトも参考にしてください。
キノマチュエブ <https://kinomachi.jp/> | 105/